キャスト	行動・セリフ・曲	照明
	シネマ・シメリック終了	30%
バンド	**暗転後、ローテ開始（指揮者も入ってくる）**	
黒服	上手袖に向かい衣装準備、準備ができ次第上手端へ。	
警察	下手袖で衣装準備、待機。	
小田・お初・友美	下手側に登場 （マイク、小田：ピン、お初：手持ち、友美、手持ち）	
小田	「れすとらん北斎」	
お初	「い、い、いー……イカ！」	
友美	「（戸惑いながら）……カチューシャ」	
小田	「シャか。シャかヤ、どっち？」	
友美	「好きなほうでいいよ」	
小田	「わかった。それじゃあ…」	
	三人にスポット。	
小田	「ジャングルクルーズ」	
お初	「ず、す、す、す、寿司！」	
友美	「…ショー」	
小田	「ジョリートロリー」	
お初	「林間学校！」	
友美	「ウォルトディズニー。……なぁ、こんなことして意味あんのか？」	
お初	「何言ってるの友美ー！ディズニーランドしりとりを極めることがディズニーランドを楽しむ第一歩だって小田も言ってたじゃん」	
小田	腕を組んで深く頷く	
友美	「そう、まずそのディズニーランドしりとりなんだけど」	
お初	「ウン」	
友美	「小田のさぁ、その、レストラン北斎？とか、なに？」	
小田	「知らんのか？ふむ、（早口）レストラン北斎というのはな、ワールドバザールにある、ディズニーランド内で唯一和食が食べられるレストランでな、繁忙期には予約しなければ入れないほど人気なんだ。（加速）ランド内ということに限らなければ、シーの方でもレストラン櫻ってところで和食がたべられるんだが」	
友美	「（さえぎって）わかった、わかった。私が悪かった。じゃあ、小田はいいとして、お初」	
お初	「え？」	
友美	「イカとか、寿司とか、絶対ディズニーランドと関係ないだろ」	

お初	「そうだけど、美味しいんだよ？」	
友美	「……あぁ、そうだな（諦観）」	
小田・お初	静止	
友美	上手側に一歩歩み出る	
友美	「（モノローグ）見ての通り、私たちはディズニーランドを楽しむ方法を学んでいるところだ。私とお初の二人は今度初めてディズニーランドに行くから、（喋りながら小田の近くへ）その楽しみ方を、大学でも随一のディズニーオタクと有名な、この小田に教わっているわけなんだが…。本当に大丈夫なのかな…（元の位置に戻る）」	
小田	「（喋ると同時に動き出す）よし、しりとりは十分できるようになったし」	
友美	「ホントか？」	
小田	「ディズニーランドを楽しむ4つのコツ・その2に進むとしよう」	
お初	「おお！」	
小田	「ディズニーには欠かせない、アレを買いに行くよ！」	
お初・友美	「（訝しんで）アレ？」	
小田	「（お初の手を引いて下手に向かいながら）ホラ、行くよー！」	
お初	「えーナニナニー？」	
友美	「え、お初、ちょ、待ってー！（あわててついていく）」	
	三人のスポット消える。	
		0%
		30%
小田・お初・友美	下手から歩いてくる。小田とお初は手をつないだまま。	
黒服	上手から登場、中央に向かって歩く（指揮台前辺りまで）	
	三人にスポットつく。	
小田	「（お初の手を放して）さ、着いたぞー！」	
友美	「いや着いたって、（周りを見回して）どこだよここ？どう見てもディズニーと関係なさそうなんだけど」	
お初	「どんなお店だろうねぇ？」	
	黒服にスポット。黒服は客席側に軽く体を向け、ケースを客席側の手に持っておく。	
お初	「あ、あれ店員さんかな？」	
友美	「いや絶対怪しいだろアレ。ホントに大丈夫なの？」	
小田	悪そうに中央に歩いていく	
お初・友美	スポットに外れないくらい離れてついていく	
友美	「もう早速歩き方から怪しいんだけど」	

小田・お初・友美	小田が黒服の近くまで来たところでストップ。	
小田	「ブツはあるか」	
友美	「ほらやっぱそういうのじゃん」	
黒服	手に持ったアタッシュケースを見せ、「金よこせ」的な仕草	
小田	アタッシュケースを開けて札束を見せる。	
小田	自分の次の台詞までにケースを閉じ、黒服に渡す。	
友美	「わっ、札束」	
お初	「（急に冷静に）私、お金持ちな人好きなのよね」	
友美	「何その暴露」	
お初	「だから友美がお金持ちになってくれたら一番良い」	
友美	「贅沢か」	
小田	「シッ！今大事なところなんだから」	
お初・友美	ハッとして黙り、小田の方を見る。	
黒服	金のケースを置き、カチューシャケースを開ける準備。	
小田	「さぁ、とうとうご対面だよ」	
友美	「こ、この中にディズニーランドに欠かせないアレが？」	
お初	「ワクワクするねぇ……」	
黒服	ゆっくりとケースを開く	
お初	「わぁ！」	
友美	「え？」	
小田	「おお、上物のブツやな……」	
友美	「カチューシャだよね？どう見てもカチューシャだよね？」	
小田	ケースからカチューシャを取り出し、匂いを嗅ぐ	
黒服	二つのケースを持って上手へ退場。	
小田	「やっぱホンモノは、匂いが違うのぉ」	
友美	「それ匂いとかないよね？八割がたケースの匂いだよね？」	
打楽器	**サイレン鳴らす**	
小田・お初・友美	焦る	
バンド	**担当者が警察帽子をかぶる**	
小田	「まずい、見つかった！」	
友美	「誰に！？」	
小田	スポットが消えたらローテに入る	
警察帽子	**「（立ち上がりながら）警察だ！」近藤朗大**	100%
警察帽子	**「（立ち上がりながら）警察だ！」横井美友**	
警察帽子	**「（立ち上がりながら）警察だ！」松尾大和**	
警察帽子	**「（立ち上がりながら）警察だ！」小平佳乃**	
グループ1	**「（グループ全員で立ち上がりながら）警察だ！」**	
グループ2	**「（グループ全員で立ち上がりながら）警察だ！」**	
グループ3	**「（グループ全員で立ち上がりながら）警察だ！」**	

グループ4	**「（グループ全員で立ち上がりながら）警察だ！」**	
	（バンド各人に番号を振り、その順番で立ち上がる）	
バンド	**（全員が言い終わった後）各々犯人を捜す仕草をする。**	
警察	下手袖から登場。その場でとどまる。	
小田	ローテに入る。	
友美	「（全員言い終わった後で）多いわ！どんな大事件だよ！」	
お初	「（キョロキョロして）あれ、小田は？」	
友美	「え？あ、アイツ一人だけ逃げたな！」	
警察（麻婆）	「警察だ！麻薬取引の容疑で逮捕する！」（手持ちマイク）	
警察	下手端まで移動。（クリス：様々なものに引っかかってノロノロ、マー坊：クリスを気にしてノロノロ）	
お初	「（必死に）そんなことしてないよー！」	
友美	「お初、逃げるぞ！」	
お初	「え、でも私たち何も悪いことしてな」	
友美	「してないけど逃げる！」	
お初・友美	上手側に逃げる、退場。	
バンド	**二人が逃げたら着席、準備。**	
警察	二人が逃げたところで、下手側から中央に走ってくる	
警察	「（中央で止まって少しキョロキョロした後）あっちに逃げたぞー！」	
	サンバ・テンペラード開始	
警察	上手へ走っていく。	
	サンバ・テンペラード	
	サンバ・テンペラード終了	
警察（松尾大和）	**「（あっきゅんのお辞儀が終わり、拍手が小さくなったくらいで立つ）犯人を逃がすなー！探せー！」**	
小田	上の台詞を言い始めたら上手袖に抜け、パーカーを着る。	
打楽器	**サイレンを鳴らす。**	
バンド	**①「走れー！」②「逃がすなー！」③「あっちだー！」④「探せー！」（サンバ前の番号と同じ）**	
バンド	**上の台詞を叫びながら、ローテする人は立ちあがり、しない人もその場でキョロキョロ探しながらローテ。**	
	ローテ後ちょっとしたら暗転。	
		30%
バンド	**暗転後、ローテ開始（指揮者も入ってくる）**	
お初・友美	走って上手から登場	
お初	「ここまで逃げれば大丈夫かな…？」	
友美	「た、たぶんな…しかし小田はいったいどこに逃げたんだ？」	

お初	「あ、そうだね。おーい、小田ー？」	
お初・友美	小田を探すように中央まで歩く。	
小田	上手からノリノリで登場。ぬいぐるみたっぷり付けた上着を着ている。	
小田	「呼んだかーい！」	
友美	「（ビビる）うおぉ！……怖っ！」	
お初	「小田ー！どこ行ってたのー！」	
小田	「悪いね、警察に紛れて逃げてたのさ」	
友美	「（恐る恐る）で、そのおびただしいミッキーは？」	
小田	「（ノリノリを止めて）あ、コレ？コレね、ショーを見る用の衣装」	
お初・友美	首を傾げる	
小田	「ディズニーランドといえば、ショーを見ない手はないよね？」	
お初	「ウンウン」	
友美	「まあ」	
小田	「その時にな、例えばミッキーのグッズを身に着けていると、ミッキーがよくこっちを見てくれるんだよ」	
お初	「へぇ〜」	
友美	「で、その結果が？」	
小田	「（得意げに）コレだ」	
友美	「ヤバイよね。ミッキーもちょっと目合わせ辛いでしょソレ」	
小田	「それはともかく、ここでディズニーランドを楽しむコツ・その3だ！」	
お初	「おお！」	
小田	「ショーといえば、今やってるショーは見てる方も一緒にダンスを踊るタイプのショーだ。だから事前にダンスを踊れるようになってショーに臨まねばならない」	
友美	「おお、確かにそうだな」	
お初	「じゃあ、早速振り付けを教えてよ」	
小田	「（食い気味に）甘ぁぁぁぁぁぁぁい！！シナモンチュロスより甘ーーーーい！」	
友美	「えぇ…」	
お初	「美味しそうだねぇ…」	
小田	「お前たち、そもそもダンスというものをちゃんと踊れるのか？」	
友美	「いや、そんなに…」	
小田	「そんなんでダンスに加わろうなど、ハニーポップコーンの百倍甘いわぁぁぁぁ！！」	

友美	「えええええ？？」	
お初	「（嬉しそうに）うーん、お腹空いてきちゃったー」	
小田	「と、いうわけで、ただ今からダンスの練習を開始します！」	
友美	「マジでやるのか…。お初、ダンスだってー」	
お初	「え、アイス？」	
友美	「ダンス」	
小田	「それじゃあ、ポップなトーンでいくよー！」	
お初	「ポップコーン！？」	
友美	「あぁ～…始まったか…」	
お初	「あ～お菓子の匂い～」	
お初	お菓子を求めて下手へ退場。	
友美	上手へ向かう。	
小田	「よぉぉっし、それじゃあ！（周りを見る）……って、あれ？お初がいない？」	
	友美にスポット。	
小田	「友美ー？お初どうしたー？」	
友美	「あー…お菓子を探しに行った」	
小田	「お菓子？え、どういう？」	
友美	「あぁ、ごめんな、よくあることなんだ。でも大丈夫、（腕時計を確認しながら）今、昼ごはん食べてから4時間25分35秒だから、んー、3分18秒もあればお菓子食べ終わって帰ってくると思うよ」	
小田	「…（唖然）」	
友美	「ん、どうした？」	
小田	「いや、よくわかってらっしゃることで…」	
友美	「まぁ、付き合いが長いからどうしてもな。さ、お初がいない分私がダンス覚えるからさ、早速始めよう」	
小田	「あ、うん…」	
友美	ローテに入る。	
小田	「（下手端に歩きながら）よ、よし、気を取り直して、ダンスをやるよー！それじゃあなごすいの皆さん、ノリノリでよろしくぅ！（止まる）ミュージック、スタート！」	
小田	下手側にはける。	100%
	じょいふる流れる（座奏で）	
小田	「（登場しながら三小節目に入るくらいで叫ぶ）ストォォォップ！！！」	
バンド	**小田の台詞が聞こえたら演奏ストップ。**	
バンド	**（SPでグループ①に振られた人）小田の台詞が聞こえてから一小節くらい吹いて止める。**	

バンド・指揮者	**怪訝そうに小田の方を覗き見る。（手を付けて見たり、頭を振って覗き見ようとすべし）**	
小田	「（バンドの方に歩いていきながら）みなさーん、誰が貴方たちは踊らなくていいと言ったんだ。さぁ、踊るよ！」	
小田	腕を振り上げ、えいえいおーの「おー」だけみたいな動きをしようとする。	
バンド	**「（小田の振りの「おー」のタイミングに合わせて）えぇーーー？」**	
バンド	**頭や手を振ったりなど、身振り手振りを加えながら嫌がり、隣の人とやかましく愚痴的な何かを言い合う。**	
小田	「わかった。よしみんな聞いてくれ！」	
バンド	**愚痴を止めて小田の方を見る。**	
小田	「この中で一番上手く踊れた奴には…ディズニーランドのチケットをやろう！」	
バンド	**「マジ？」「えー！（驚き）」「ほしいー！」のどれかを隣の人と言い合う。**	
小田	「みんな、ディズニーに行きたいか！？」	
バンド	**静まる。**	
あっきゅん	**「…そうだ！」**	
バンド	**あっきゅんに続き「そうだ！」「行きたい！」「やろう！」のどれかを隣の人と元気に言い合う。**	
小田	「（頷いてから）ならば、ダンスとはどんなものか見せてやろう！」	
バンド	**「YEAH!」**	
小田	「なごすいとはどんなものか見せてやろう！」	
バンド	**「YEAAAH!!!」**	
小田	「さぁ…踊るぞ！！」	
バンド	**「YEAAAAAAAAAAH!!!!!」（準備）**	
小田	「ミュージック、スタート！」	
小田	音楽開始とともに、下手の階段を降りて近くの席に座り、現場監督のように見守る。	
	じょいふる	
	じょいふる終了	
お初	下手のドアから登場、下手端で待機。	
小田	拍手が終わったくらいで、客席から立ち上がり、下手の階段を上りながらセリフ。	

小田	「うむ、みんな素晴らしいスタンドプレーだった！これだけ出来れば本番のショーでも上手く踊れるだろう！」	
バンド	**隣の人とハイタッチしたり「お疲れー」などと苦労をねぎらいながらローテ（指揮者も）**	
		30%
小田	パーカーをぽんでに渡して上手側へ。	
お初	上手側に向かう	
お初	「（コッソリ入ってきてごまかすように）あー、ダンス、疲れたねー」	
友美	上手方向からスポットに入ってくる。	
友美	「お初、踊ってないだろ」	
お初	「いや、あの、心は、踊ってたよ？」	
友美	「お菓子を前にして？」	
お初	「エへへ」	
友美	「エへへじゃない」	
小田	「そうだお初、お菓子と言えばディズニーにはチョコクランチっていうお菓子があってな、この種類が	
友美	「小田、これ以上お菓子はダメだ」	
小田	「あ、そっか」	
お初	「小田ー次は？」	
小田	「あぁ。次がいよいよ、最後、ディズニーランドを楽しむコツ・その4だ！」	
お初	「ええー、もう？」	
小田	「最後は、ディズニーランドに行った時に忘れてはならないことについてだ」	
小田	いつになく真面目な雰囲気で下手側へ歩いていく	
お初・友美	スポットから抜けた後に上手から退場（お初はローテに入る）	
小田	「ディズニーの生みの親、ウォルトディズニーはよく娘たちと一緒に遊園地に遊びに行っていたそうだ。しかし子供たちが遊んでいるのを、親の自分はただベンチで座って見ているだけ。そこで彼は思った。子供だけでなく、大人も一緒に楽しめるような場所が必要だ、とね。ディズニーランドは、そういう場として作られたんだ。お前たちももう大人に近づいてきた年ごろだ。昔のように無邪気にはいられないことも多いだろう。」	
	What a Wonderful World流れ始める	
ユーフォ	**前に出てくる。**	
	（ここから先の台詞はイントロと被せる）	

小田	「でも、ディズニーランドでは子供と一緒になって、子供のように遊んでいいんだ。小さかった頃みたいに、ちょっとした冒険を楽しんだり、キャラクターに一生懸命手を振ったりすればいいんだ。今まで教えたどんなことより、それが一番、ディズニーランドを楽しむ秘訣なんだ」	段々明るく
小田	下手へ退場。裏から上手に向かう。	100%
	What a Wonderful World ～この素晴らしき世界～	
	What a Wonderful World終了。	30%
バンド	**暗転後、ローテ開始（指揮者はまだ入らない）**	
小田・お初・友美	上手から登場	
小田	「これで私から教えられることはすべて教えた。あとは向こうに行って目一杯楽しんでくるがいい」	
お初	「（感涙）小田ー！ディズニーランドに行っても、教えてもらったこと忘れないよー！」	
友美	「引っ越しする小学生か」	
小田	「それから、（背中から隠していたカチューシャ二個を出して）これは免許皆伝の証だ」	
小田	二人にカチューシャをそれぞれ渡す	
お初	「あっ、これあの時の」	
友美	「あぁ、ありがとう」	
小田	「（渡し終わってから）どう二人とも。楽しむコツ、分かったかい？」	
お初	「うん、小田の話聞けて楽しかったよ！」	
友美	「ダンスも覚えたし、心構えも、たぶん大丈夫」	
小田	「（嬉しそうに）よかった。帰ったらまた感想を聞かせてくれ」	
友美	「ああ」	
小田	「仕切り直して）それじゃ私は今から、（早口で）カリフォルニアとフロリダとパリと香港と上海と東京（ここまで）のディズニーランドをはしごしてくるよ！じゃあなー！」	
小田	ローテに入る	
お初	「（しばらく呆然としてから）小田には敵わないねぇ」	
友美	「あいつ、大学の授業出てるのかな…」	
友美	「（上手側に歩きながら）それから少し後、私たち二人は初めてのディズニーランドに向かった」	
お初	その場で止まっている。	

友美	「（止まって）教えてもらったこと全てが役立つとは思えないが、私たちなりに楽しんでみようと思う。さぁ、いよいよ出発」	
お初	「（スポットに入ってきて）ねぇねぇ友美？」	
友美	「…。どうした？お初」	
お初	「（無邪気に）結局ディズニーを楽しむにはどうしたらいいの？」	
友美	「え！？聞いてなかったの！？」	
お初	「え、何を？」	
友美	「ハァ…（ため息）もういい！（カチューシャを付ける）行くぞお初！ディズニーランドを楽しむぞー！	
友美	右手で斜め上を指さしながら上手に向かう	
お初	「オー！」	
お初	右手を振り上げながら友美についていく	
お初・友美	スポットが消えたらローテに入る	
	指揮者入場。	100%
	ディズニーランド50周年セレブレーション	
	※台本は開発中のもので製品版とは異なる可能性があります。	